

平成 28 年 8 月 10 日

越谷保育専門学校  
校長 山崎芙美夫

## 平成 28 年度第 1 回教育課程編成委員会報告の公表について

教育課程編成委員会による本校の「平成 28 年度第 1 回教育課程編成委員会報告」を公表します。

### 1 委員名簿

委員長:山崎芙美夫委員 副委員長:美入昌男委員

#### (1) 外部委員

池田 祥子	社会福祉法人杉の子保育会理事
石田 高幸	学校法人石田学園理事長 社会福祉法人わせだ会わせだっこ中央保育園園長
植竹 清文	学校法人植竹学園認定こども園わかばの森園長
岡 美那子	社会福祉法人 まあれ愛恵会 さいたまたいよう保育園園長
山田 陽子	十文字学園女子大学人間生活学部幼児教育学科教授

(五十音順)

#### (2) 学校側委員

山崎芙美夫	学校法人ワタナベ学園理事長兼越谷保育専門学校校長
美入 昌男	越谷保育専門学校副校長
会田 秀樹	同 学科長
須賀 成則	同 事務長
東海林 孝	同 教務部学科主任
渋谷るり子	同 教務部学科主任
菊地 秀典	同 事務長代理

### 2 教育課程編成委員会開催状況

日時:平成 28 年 7 月 4 日(月)午前 11 時 20 分～12 時 20 分

会場:越谷保育専門学校 201 教室

参加委員:上記外部委員 5 名、学校側委員 7 名

### 3 委員会次第

開会

- (1) 委嘱状の交付
- (2) 委員の紹介
- (3) 校長挨拶
- (4) 委員長選出
- (5) 協議

- ア 教育課程編成委員会の進め方の説明
  - イ 平成 27 年度教育課程編成方針及び特色の説明
  - ウ 平成 28 年度以降の教育課程編成に向けて
  - エ 授業内容等の改善に向・工夫に向けて
  - オ その他
- (6)その他
- ア 次回の開催予定
  - イ その他
- 閉会

#### 4 第1回委員会議事要録 別紙のとおり

別紙

## 平成 28 年度越谷保育専門学校 第1回教育課程編成委員会議事要録

平成 28 年 7 月 4 日

1. 委嘱状の交付
2. 委員の紹介
3. 校長挨拶
4. 議長選出  
山崎校長
5. 協議事項

### (1) 教育課程編成委員会の進め方の説明

#### 学校側の説明

本委員会では、カリキュラム、授業計画、行事等全体を教育課程として見ていただき、委員からは現場での最新の情報提供等意見を頂きたいと思えます。学校側の教育課程に反映できるものがあれば委員から意見を聞いて今後の教育課程に役立てていこうと思えます。

### (2) 平成 28 年度教育課程の編集方針及び特色の説明

#### 学校側の説明

平成28年度は教育課程の変更はありませんでした。今後は幼稚園教育要領、保育所保育指針、保育教育要領の改訂、教職課程や保育士養成の教育課程の見直しがあるので、そちらに向けて教育課程を変更しなければなりません。本校の特色としては教育課程には含まれておりませんが、実習体験があります。他にはキャリア教育の実施、公務員試験対策講座、おもちゃインストラクターの受講・資格の認定を予定しています。実習体験の巡回指導、記録の添削指導に関しては全教員で取り組んでいます。後期には他の幼稚園・保育園等の園長先生、卒業生の講演会を予定しています。

### (3) 平成29年度教育課程編成に向けて

#### 学校側の説明

現時点では特にありません。

外部委員からの提言と質問事項等

Q1(委員) 既卒者の人たちの実態について知りたい。浪人なのか社会人からなのか。

A1(学校) 浪人生はほとんどいない。次回までに年齢層や大学を卒業してから現在何歳など、大卒または短大卒なのかなど作成しておきます。

Q2(委員) 社会人から入学された方が多いが、その場合にカリキュラム上のメリットは？

A2(学校) 既修得単位の認定に関する規程があります。例えば本校と同じように幼稚園の教員免許状を取れる学部学科で学んでいた、もしくは指定保育士養成施設で学んでいた場合には、教員免許関係では流用するのか単位認定するのによっても違うが、専修学校の設置基準では2分の1まで認められる可能性がある。保育士資格は30単位まで認めている。

社会人や既卒者のサポートということで授業料についての減免もあります。

同じ教員免許が取得できる学部学科ですと教職科目も認められるが、大学を出た学生のほとんどが幼稚園教諭免許状をとれる学部学科ではありませんので、認められる単位は一般教養科目だけになってしまいます。

Q3(委員) リメディアル、国語力というものは保育者になるときに求められており、実習で書くことが多いということで大学の1年生もリメディアル教育で国語の授業を別に受けている学生もいます。なかなか2年間で凝縮した学びをする中でリメディアルを行う時間もないと思うのですが、教科に関する科目の中で国語が2単位で1年生前期にあると思うので、そのときに高校時代の復習も兼ねるとするのはどうでしょうか？

A3(学校) 日本語の表現法の授業はリメディアルに関わるようなことでやっていたこともあるが、児童文学を用いてということが強調された内容になっている。リメディアル教育は2年間の中では難しく、特に高校新卒・既卒のギャップが大きく、どう埋めるかが課題となっている。

(委員) 児童文学を用いてという内容を盛り込みながらキーワードの中に日本語の重要性、言葉の正しさ、日本語の表現力などが出ているので、この中にリメディアルも入っているとお見受けしました。あと、個人差はどの科目でも出ると思うが、例えば演習科目の1クラスの人数は？

(学校) 40名までです。

(委員) 2クラスに分かれていますね。クラスの分け方を理解の程度に応じてというのは難しいのでしょうか？全てに対しては難しいとは思いますが、基本的な学びのところとか、1年生前期のところまで丁寧にやることで、学生の自信も培われる気もしました。

(学校) 検討していきます。

(学校) 文章力について2か月前に文部科学省の方から話を聞いたときに、幼稚園教育要領の改訂のポイントの一つとして、どこに気づいて、どこに感じて、どう伝えるかがこれからは大事ですよと話していた。どう伝えるか、文章なのか言葉なのかわからないが、一つのキーワードで出てくる可能性がある。

(委員) もちろん身体でも気付くが、言葉によって気付く。言葉に変えたときにはっきりとした気付きになっていく。語彙を使いこなしていけないと、自分の気付きをどういう言葉で表現しようかというところで止まってしまう。保育者は気付いたことを親に伝えていかないとい

けない。書き言葉と語る言葉は重なることもあるが、語った言葉をどう書き言葉にしているかということとか、国語力というのは表に出てくる感じがする。

(委員) 力の差がある中でどのようにしてゆくかは難しいですけれども、実習指導で指導案を書いたり、エピソードを書いたり、個別にもやりながら全体もやりながら書くというのをやる。書けないとか何を書いているかわからないとか、焦点がはっきりしないというのを個別の中ではやるとは思いますけど、ゆとりがあればこれは面白い書き方だとか、要領よくまとめているとかサンプルをみんなで見るとか、ただそれを真似しろということではなくて、短い時間でちょっとしたエピソードを捕まえる力、それを簡潔に書く力、例えばこういうのもあるよ、と。そういうのが出てくれば参考になるかなと思います。

(委員) 現場としては、難しいことではなく日記が書けるような先生であれば。言葉で伝えるのには限界があり、保護者には文章で伝える。言葉は職員間で行うものであって、保護者には手帳に書いて見てもらうこともあり、そこで文章がちぐはぐしている、漢字が間違っているというのは、そこから教えるのは大変である。日記が書けるような先生がほしい。

(委員) 学生するとき、実習の指導案を書いたときに担当してくださった先生から文章の書き方、こういう表現は否定することになるからとか具体的なことを教えていただき役に立っている。実習の授業のときに文面を細かく見ていただいて、なんでこの表現はよくないのかと言われれば入学後すぐの実習だったので先生から言われたことが新鮮に受け入れられた。うちの園に入ってきた人も連絡ノートを書く練習を最初にした。そのときに文面が整っているかというのは学校で指導しているか、していないかで差がでる。子どもたちの姿も一言入れていいですねと話したときに、学校で厳しく言われたと言っていて、それが身についた状態で入ってくるとそこからの保育士として働いた時のスタートのレベルが違う。子どもたちとの実習をさせていただける恵まれた環境にあるので授業の中で身につけていければ他の学校の学生より一歩上からスタートできるのでは。連絡ノート等で正しい言葉が使えるかどうか、保護者の人や目上の上司に対して正しい言葉でお話できるかどうか、普通の会話ではやわらかい表現になっていても、場に応じて使える言葉が分かっていると現場の立場としてはすごくありがたい。

(委員) 5～6年の経験者のところに実習生が入るとよく見るが、1～2年ではまだ自分のことが精いっぱい客観的に見ることができない。指導案を書いてそれをどうやっていくかということが具体的に書けるといいのですが、他人のものを写したようなものでは生きてこない。

(議長) 平成30年度頃にカリキュラムが変更になり、なかなか教育課程の編成ということで意見をいただいても難しいところがある。その中でもいただいた意見を検討し、教育課程の編成の中でアクティブラーニングを積極的に取り入れた授業展開をするという内容としてはすでに出ている。あとは授業で使っていただくのに先生方への研修等も必要である。今日いただいた意見を専任教員、非常勤講師にも伝達するようにして進めていきたい。

以上

